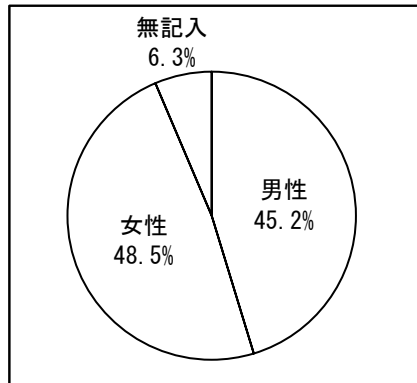


**本 編**

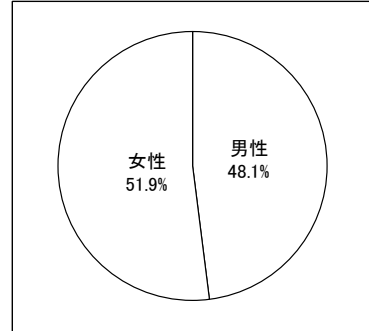
**調査の結果**

# 1. 回答者の属性

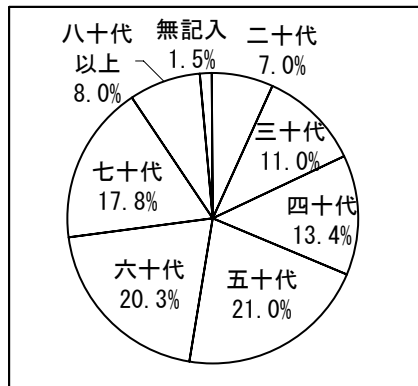
## (1) 性別



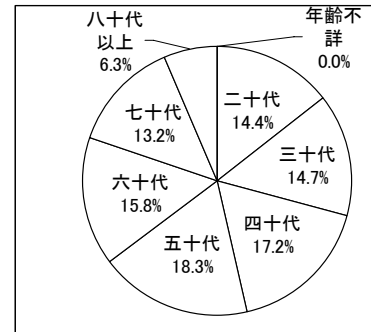
<参考：上越市の性別 20 歳以上人口割合>



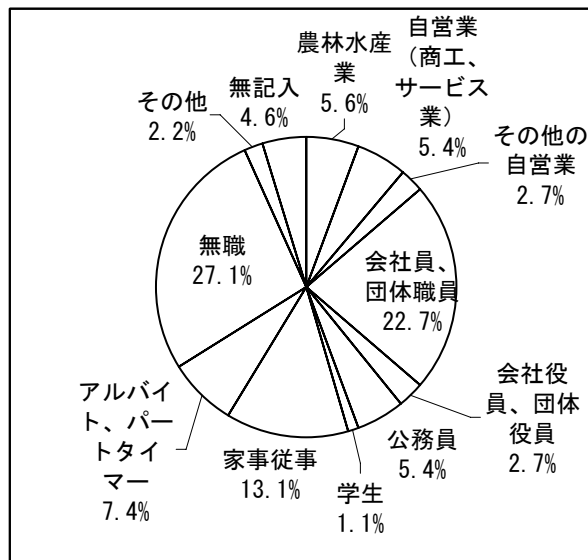
## (2) 年齢



<参考：上越市の年代別 20 歳以上人口割合>

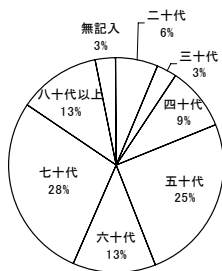


## (3) 職業

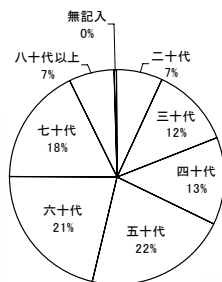


### (4) あなたが現在お住まいの地区

	票数	構成比				
高田地区	380	20.6%	合併前の上越市	1,075 (58.3%)		
直江津地区	227	12.3%				
春日地区	120	6.5%				
新道地区	43	2.3%				
金谷地区	59	3.2%				
諏訪地区	12	0.7%				
和田地区	32	1.7%				
津有地区	39	2.1%				
三郷地区	12	0.7%				
高土地区	14	0.8%				
有田地区	50	2.7%				
八千浦地区	38	2.1%				
保倉地区	21	1.1%				
北諏訪地区	15	0.8%				
谷浜地区	11	0.6%				
桑取地区	2	0.1%				
安塚地区	28	1.5%				
浦川原地区	48	2.6%				
大島地区	22	1.2%				
牧地区	28	1.5%				
柿崎地区	125	6.8%	旧13町村	(407.0%)	旧東頸城郡	126
大湯地区	105	5.7%			旧中頸城郡	(315.4%)
頸城地区	69	3.7%			旧西頸城郡	32
吉川地区	53	2.9%				
中郷地区	53	2.9%				
板倉地区	85	4.6%				
清里地区	28	1.5%				
三和地区	62	3.4%				
名立地区	32	1.7%				
無記入	32	1.7%				
母数	1845	100.0%				

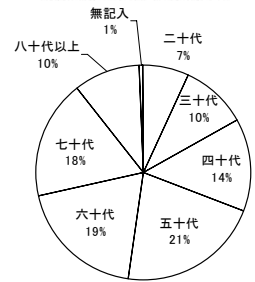


**旧13町村【旧西頸城郡】**  
(名立地区)  
n=32 (1.7%)  
・地区内人口=3,388人  
・総人口に占める割合=1.6%

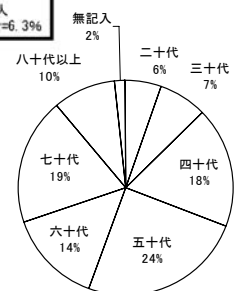


**合併前の上越市**  
(高田地区、直江津地区、春日地区、新道地区、金谷地区、諏訪地区、和田地区、津有地区、三郷地区、高土地区、有田地区、八千浦地区、保倉地区、北諏訪地区、谷浜地区、桑取地区)  
n=1,075 (58.3%)  
・地区内人口=134,751人  
・総人口に占める割合=63.6%

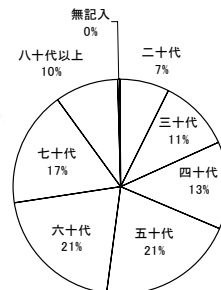
**旧13町村【旧西頸城郡】**  
【旧中頸城郡】  
【旧東頸城郡】  
n=738 (40.0%)  
・地区内人口=77,119人  
・総人口に占める割合=36.4%



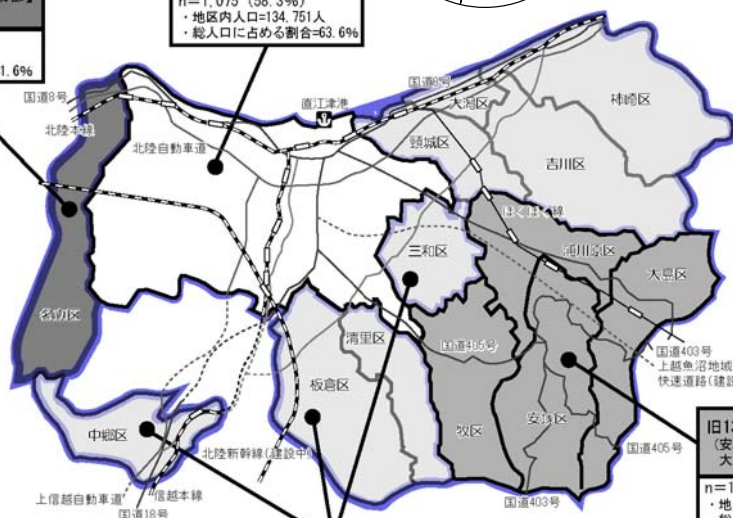
**旧13町村【旧東頸城郡】**  
(安塚地区、浦川原地区、大島地区、牧地区)  
n=126 (6.8%)  
・地区内人口=13,406人  
・総人口に占める割合=6.3%



**旧13町村【旧中頸城郡】**  
(柿崎地区、大湯地区、頸城地区、吉川地区、中郷地区、板倉地区、清里地区、三和地区)  
n=580 (31.4%)  
・地区内人口=60,325人  
・総人口に占める割合=28.5%



**無記入**  
n=32 (1.7%)

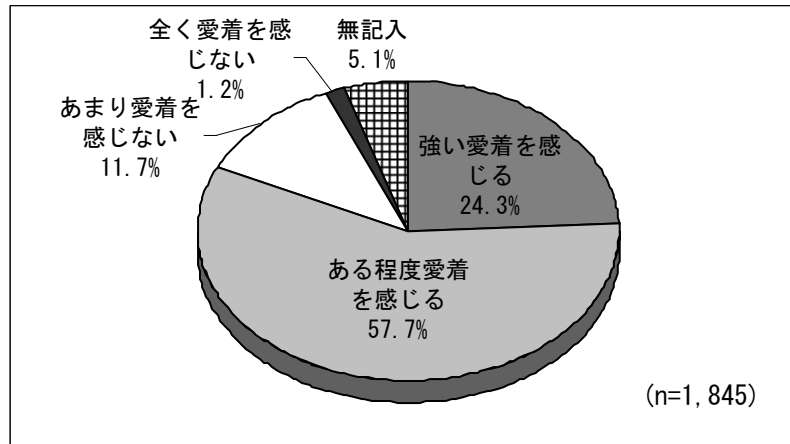


## 2. 現在の生活や暮らしについて

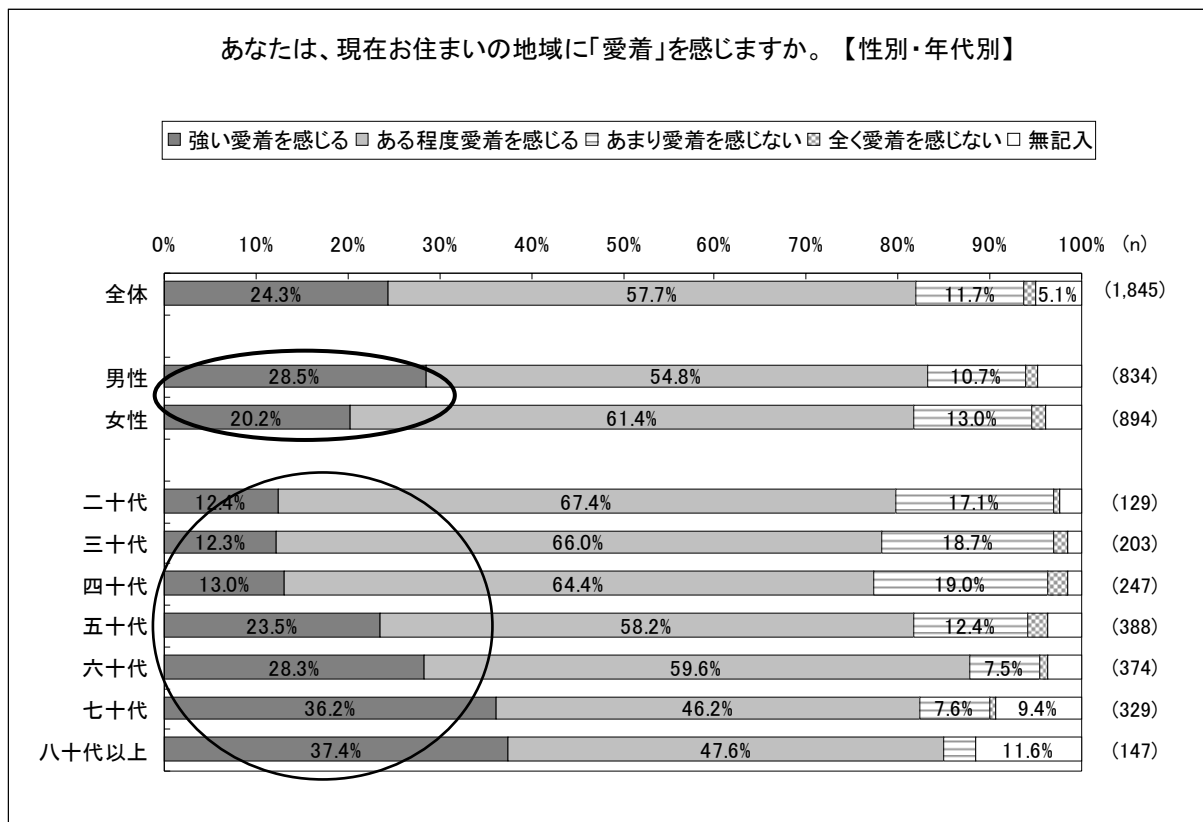
### 2-1 地域への愛着

問1 あなたは、現在お住まいの地域に「愛着」を感じますか。当てはまるところの線に○を付けてください。

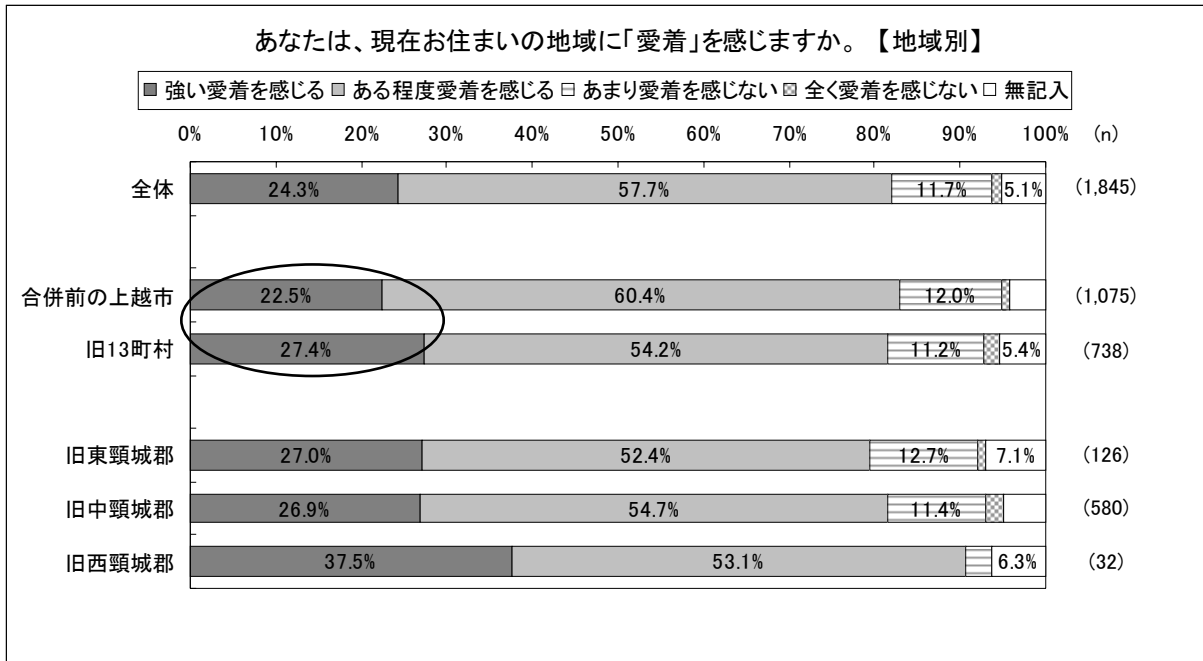
<全体集計>



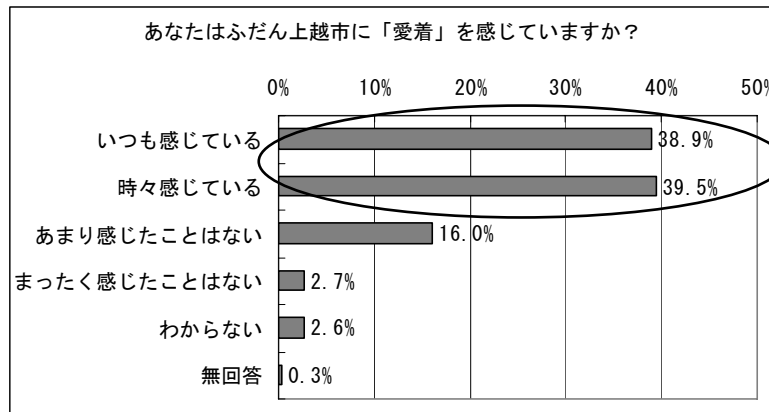
<クロス集計（性別・年代別）>



<クロス集計（地域別）>



<前回調査結果>



現在お住まいの地域に愛着を感じているかについて、「強い愛着を感じる」（24.3%）、「ある程度愛着を感じる」（57.7%）で、合わせて82.0%が愛着を感じている。逆に、「あまり愛着を感じない」（11.7%）、「全く愛着を感じない」（1.2%）で、合わせて12.9%が愛着を感じていない。

男女別にみると、愛着を感じる人の合計値に大きな差はないが、「強い愛着を感じる」人は、女性（20.2%）より男性（28.5%）の方が多。

年代別にみると、年齢層が高くなるにつれて愛着を感じる人が増加し、「強い愛着を感じる」人の割合も増加している。

地域別にみると、愛着を感じる人の合計値に大きな差はないが、合併前の上越市より旧13町村のほうが「強い愛着を感じる」人が多い。

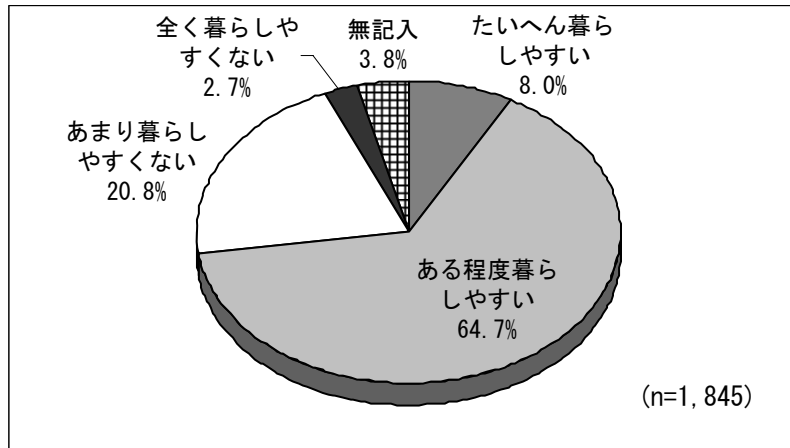
前回調査における回答と比較してみると、愛着を感じる人の合計は、前回調査の78.4%から今回調査の82.9%へと若干増加している。一方で、「強い愛着を感じる」人は、前回調査38.9%から今回調査の合併前の上越市22.5%へと減少している。近年コミュニティの希薄化などが社会的な現象となっており、地域への愛着が全体的に薄れつつある傾向にはあるが、この結果の要因としては、前回調査との設問方法の違いが影響していると考えられる。

（前回調査では「上越市」に愛着を感じているかを聞いているのに対して、今回調査では「現在お住まいの地域」に愛着を感じるかを聞いている。）

## 2-2 暮らしやすさ

問2 あなたは、現在の生活を「暮らしやすい」と思っていますか。

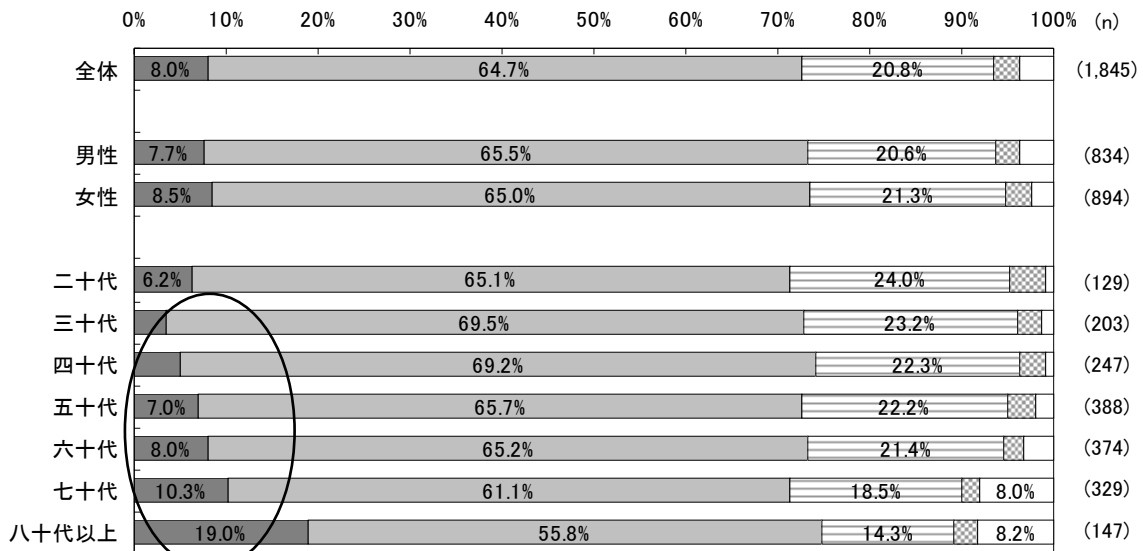
<全体集計>



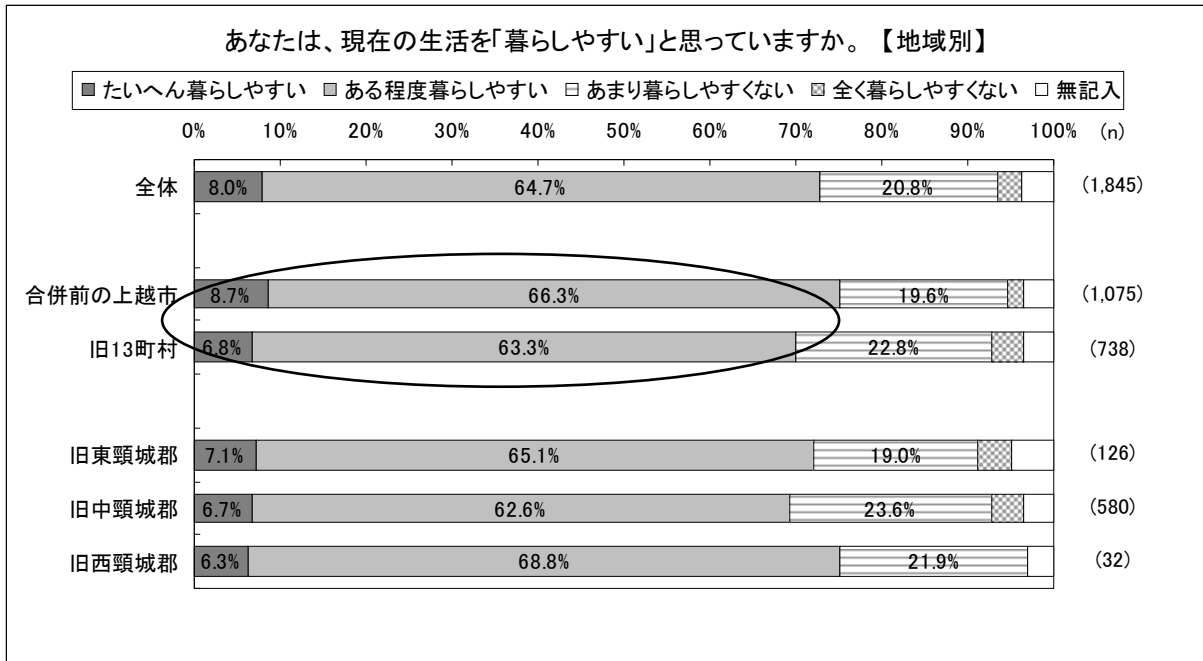
<クロス集計（性別・年代別）>

あなたは、現在の生活を「暮らしやすい」と思っていますか。【性別・年代別】

■ たいへん暮らしやすい ■ ある程度暮らしやすい □ あまり暮らしやすいくない □ 全く暮らしやすいくない □ 無記入



<クロス集計（地域別）>



現在の生活は暮らしやすいと思っているかについて、「たいへん暮らしやすい」(8.0%)、「ある程度暮らしやすい」(64.7%)で、合わせて72.7%が暮らしやすいと感じている。逆に、「あまり暮らしやすいくない」(20.8%)、「全く暮らしやすいくない」(2.7%)で、合わせて23.5%が暮らしやすいと感じていない。

男女別では、大きな違いはみられない。

年代別にみると、「たいへん暮らしやすい」、「ある程度暮らしやすい」の合計値に大きな違いはないものの、「たいへん暮らしやすい」については、20代を例外として、年齢層が高くなるにつれて「たいへん暮らしやすい」と思う人の割合が増加している。

地域別にみると、旧13町村に比べ、合併前の上越市のほうが若干暮らしやすいと思っている人が多い。一つの要因としては、「暮らしやすさ」を感じる上位3項目について、合併前の上越市では「買い物が便利」があがっており、旧13町村と比べ大型商業施設が充実していることなど買い物の便利さが影響していると考えられる。(20ページ参照)

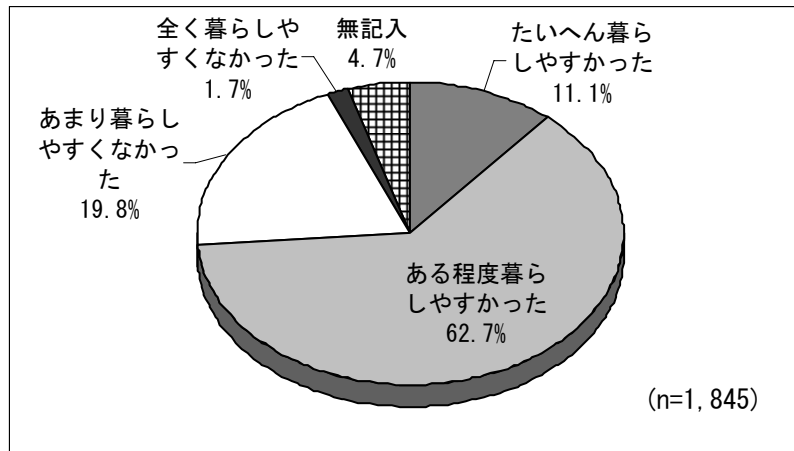
(参考) 平成17年国民生活に関する世論調査(内閣府、平成17年6月)

全体として、現在の生活にどの程度満足しているかについて、「満足」とする人の割合は、59.5%（「満足している」7.7%+「まあ満足している」51.8%）となっている。

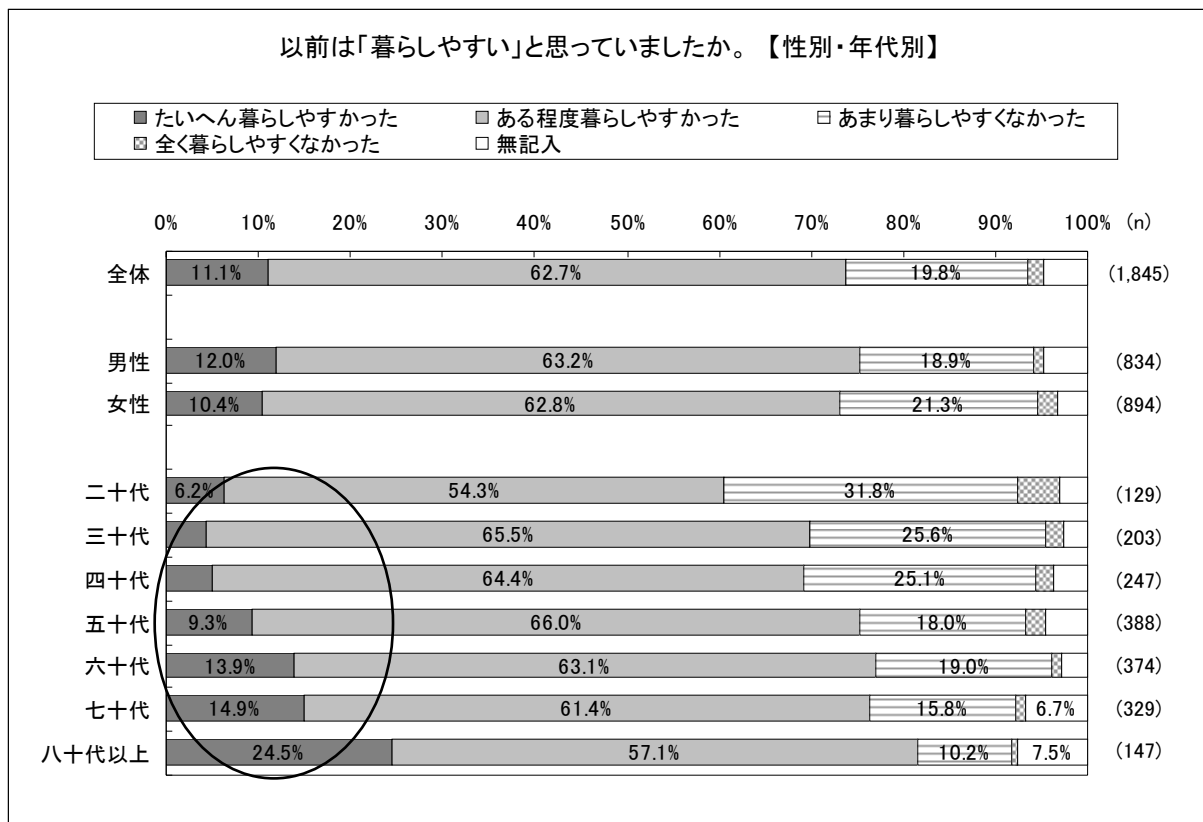
## 2-3 暮らしやすさの変化

問3 以前は「暮らしやすい」と思っていましたか。

<全体集計>

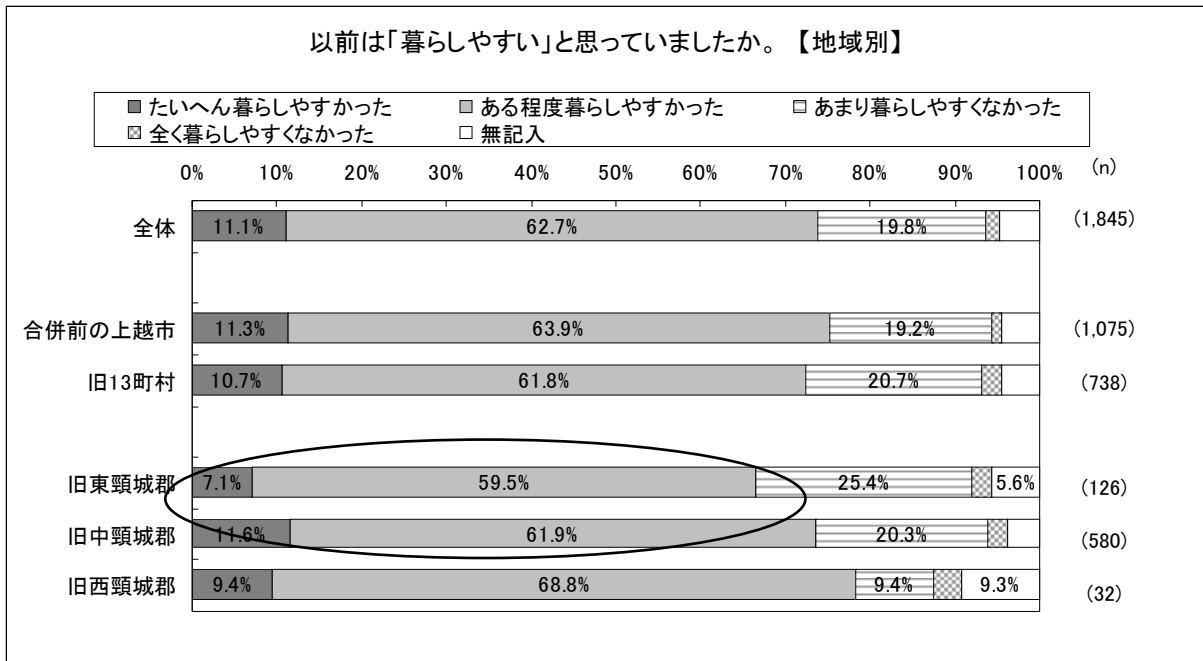


<クロス集計（性別・年代別）>

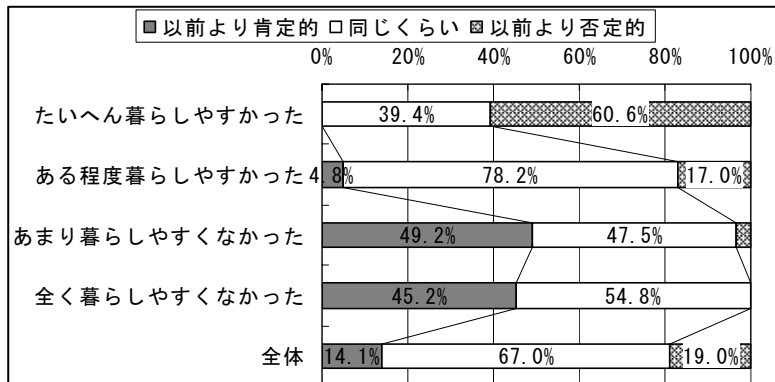




<クロス集計（地域別）>



<現在の暮らしやすさ（問2）と以前の暮らしやすさ（問3）の比較>



問3の回答に対し、問2の回答がその区分よりも暮らしやすいと評価している場合を『以前より肯定的』、暮らしにくいと評価している場合を『以前より否定的』とした。

例)

問3である程度暮らしやすかったと回答した人のうち、問2で

「たいへん暮らしやすい」と回答した人・・・『以前より肯定的』

「ある程度暮らしやすい」と回答した人・・・『同じくらい』

「あまり暮らしやすくない」、「全く暮らしやすくない」と回答した人・・・『以前より否定的』

となる。

以前は暮らしやすいと思っていたかについては、「たいへん暮らしやすかった」(11.1%)、「ある程度暮らしやすかった」(62.7%)で、合わせて73.8%が以前は暮らしやすいと思っていた。逆に、「あまり暮らしやすくなかった」(19.8%)、「全く暮らしやすくなかった」(1.7%)で、合わせて21.5%が以前は暮らしやすくなかったと思っている。

男女別では、大きな違いはみられない。

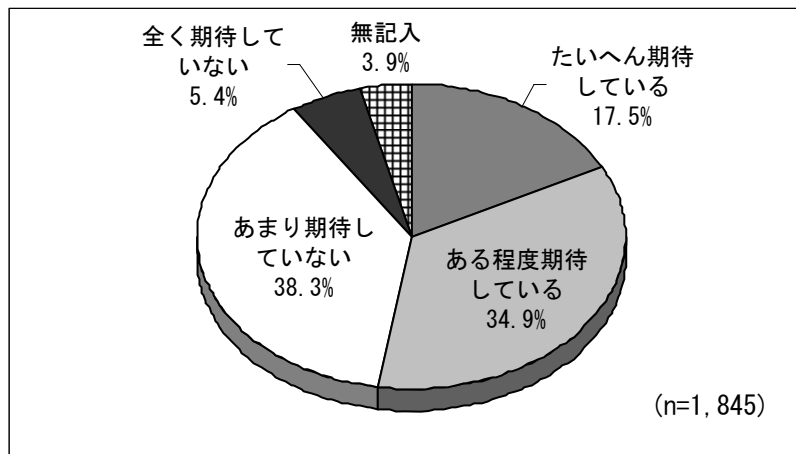
年代別にみると、年齢層が高くなるにつれて、以前は「たいへん暮らしやすかった」と思う人の割合が増加している。地域別にみると、大きな違いは見られない。

現在の暮らしやすさ（問2）と以前の暮らしやすさ（問3）を比較すると、以前の暮らしやすさよりも現在のほうが肯定的な意見の人は14.1%、否定的な意見の人は19.0%となっている。回答が全体的に肯定的な意見に偏っているため、否定的な意見が増える余地が大きいことは確かであるが、全体的に暮らしやすさの評価は若干下がっていると言える。

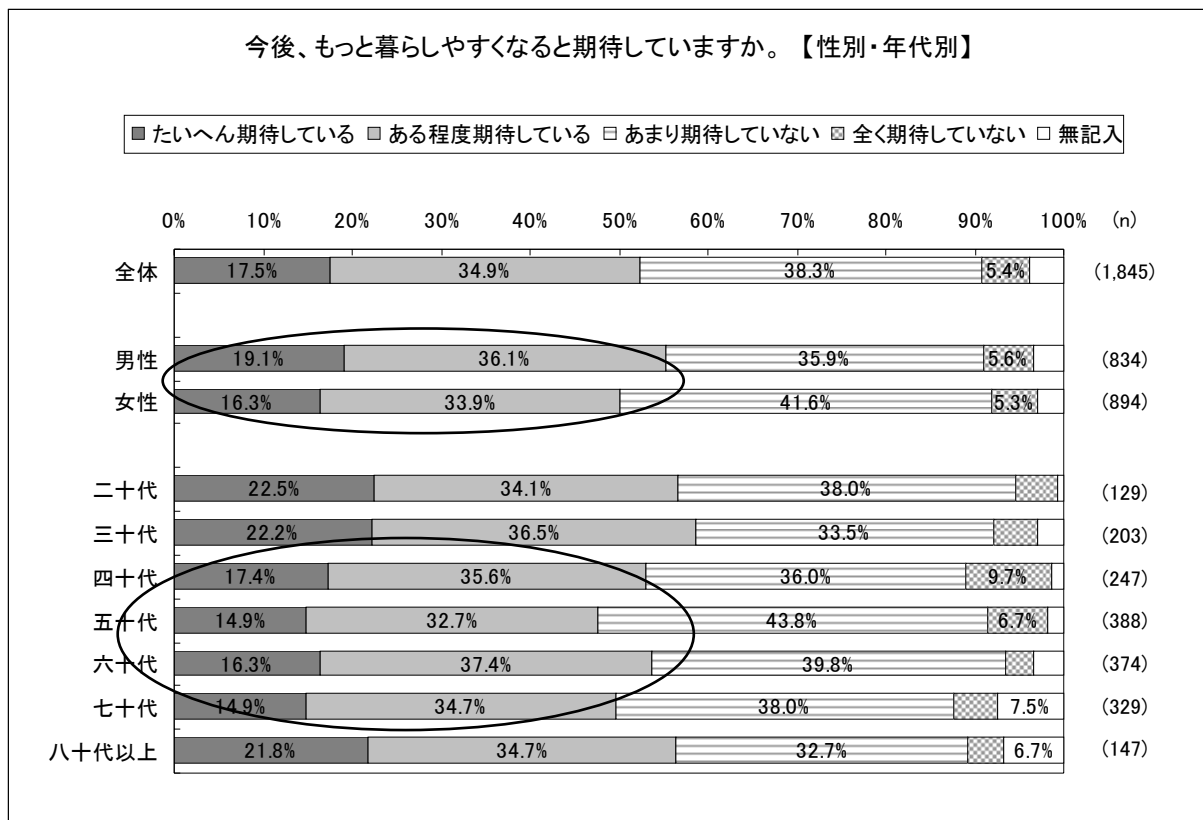
## 2-4 暮らしやすさへの期待

問4 今後、もっと暮らしやすくなると期待していますか。

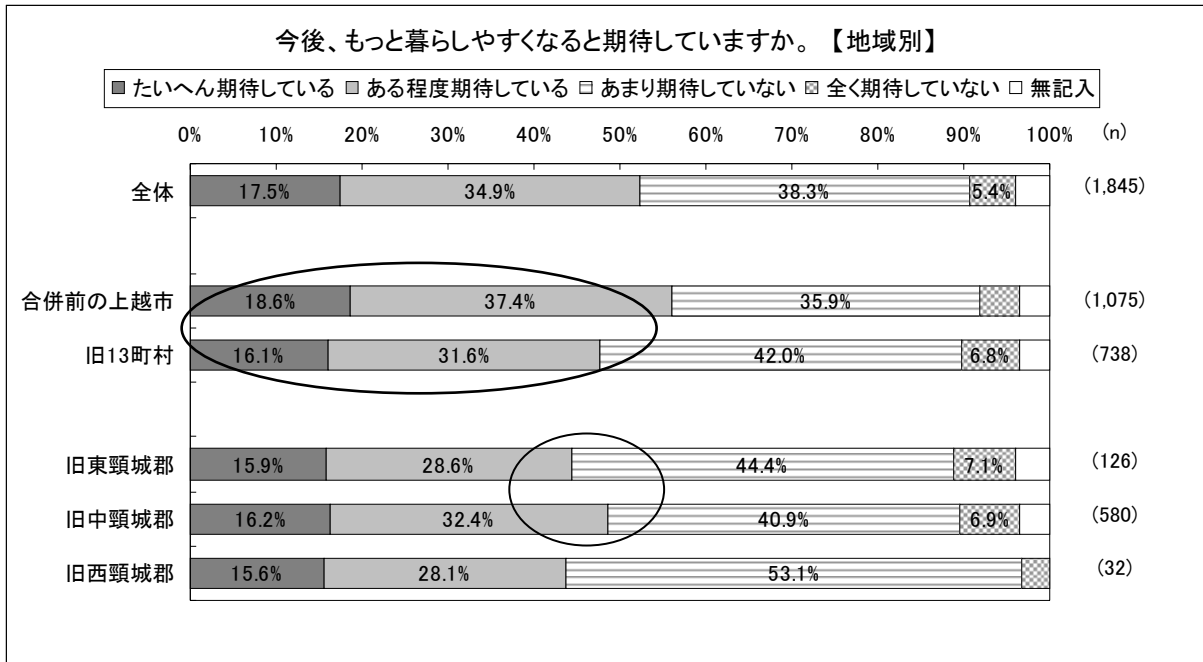
<全体集計>



<クロス集計（性別・年代別）>



<クロス集計（地域別）>



今後もっと暮らしやすくなると期待しているかについては、「たいへん期待している」(17.5%)、「ある程度期待している」(34.9%)で、合わせて52.4%が今後もっと暮らしやすくなると期待している。逆に、「あまり期待していない」(38.3%)、「全く期待していない」(5.4%)で、合わせて43.7%の人が期待していない。

男女別でみると、男性のほうが若干期待している人が多い。

年代別でみると、40代から70代で今後もっと暮らしやすくなると期待している人の割合が低い。こうした年代別の違いについては、地域における生活そのものよりも、老後の不安を始めとした社会的状況が色濃く出ていると考えられる。

地域別にみると、旧13町村に比べ、合併前の上越市のほうが今後暮らしやすくなると期待している人が多い。また、旧東頸城郡と旧中頸城郡の意識の差がみられる。

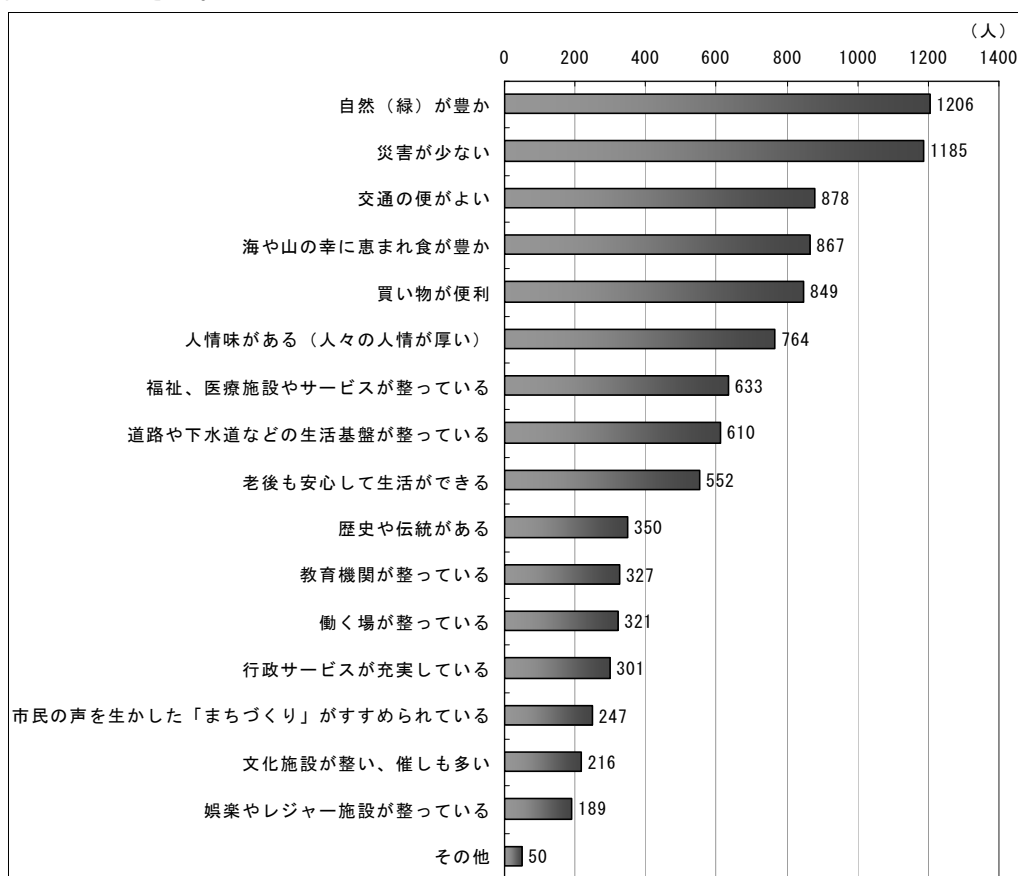
これらは、市町村合併直後の今後のまちづくりへの期待感に、地域差が現れたと考えられる。

(参考) 平成17年国民生活に関する世論調査(内閣府、平成17年6月)

生活はこれから先「良くなっていく」と回答した人の割合は8.4%、「同じようなもの」と回答した人の割合は59.4%、「悪くなっていく」と回答した人の割合は26.7%となっている。

## 2-5 暮らしやすさを感じるどころ

問5 あなたは、「暮らしやすさ」をどんなところに感じますか。当てはまるものにもいくつでも○を付けてください。



### <クロス集計：男女別（上位3項目）>

	1位	2位	3位
男性 (n=834)	自然（緑）が豊か (66.8%)	災害が少ない (63.1%)	交通の便がよい (47.6%)
女性 (n=894)	災害が少ない (66.0%)	自然（緑）が豊か (65.1%)	買い物が便利 (50.9%)
全体 (n=1,845)	自然（緑）が豊か (65.4%)	災害が少ない (64.2%)	交通の便がよい (47.6%)

<クロス集計：年代別（上位3項目）>

	1位	2位	3位
20代 (n=129)	交通の便がよい (61.2%)	自然（緑）が豊か (58.9%)	買い物が便利 (55.8%)
30代 (n=203)	自然（緑）が豊か (58.6%)	買い物が便利 (56.2%)	交通の便がよい (53.7%)
40代 (n=247)	自然（緑）が豊か (65.2%)	災害が少ない (58.3%)	交通の便がよい (48.2%) 買い物が便利 (48.2%)
50代 (n=388)	災害が少ない (70.9%)	自然（緑）が豊か (69.1%)	交通の便がよい (47.4%)
60代 (n=374)	災害が少ない (74.1%)	自然（緑）が豊か (69.0%)	海や山の幸に恵まれ食が豊か (52.9%)
70代 (n=329)	災害が少ない (72.6%)	自然（緑）が豊か (65.3%)	海や山の幸に恵まれ食が豊か (48.9%)
80代以上 (n=147)	災害が少ない (72.1%)	自然（緑）が豊か (65.3%)	人情味がある(人々の人情が厚い) (51.7%)
全体 (n=1,845)	自然（緑）が豊か (65.4%)	災害が少ない (64.2%)	交通の便がよい (47.6%)

<クロス集計：地域別（上位3項目）>

	1位	2位	3位
合併前の上越市 (n=1,075)	災害が少ない (64.4%)	自然（緑）が豊か (62.9%)	買い物が便利 (55.5%)
旧13町村 (n=738)	自然（緑）が豊か (69.5%)	災害が少ない (64.5%)	人情味がある(人々の人情が厚い) (45.3%)
旧東頸城郡 (n=126)	自然（緑）が豊か (74.6%)	人情味がある(人々の人情が厚い) (58.7%)	災害が少ない (56.3%)
旧中頸城郡 (n=580)	自然（緑）が豊か (68.1%)	災害が少ない (66.0%)	交通の便がよい (43.6%)
旧西頸城郡 (n=32)	自然（緑）が豊か (75.0%) 海や山の幸に恵まれ食が豊か (75.0%)		災害が少ない (68.8%)
全体 (n=1,845)	自然（緑）が豊か (65.4%)	災害が少ない (64.2%)	交通の便がよい (47.6%)

※全体集計における1位～3位の項目にそれぞれ■、■、■の色を塗り、それにあわせ男女別、年代別、地区別の整理を行った。なお、□に記載されている項目は、全体集計の1位～3位に該当しない項目を表す。

＜前回調査との比較（合併前の上越市）＞

順位	平成 14 年度（16 項目から複数回答）		平成 17 年度（17 項目から複数回答）	
1	自然（緑）が豊か	62.2%	災害が少ない	64.4%
2	海や山の幸に恵まれ食生活が豊か	61.6%	自然（緑）が豊か	62.9%
3	災害や公害が少なく安心	49.4%	買物が便利である	55.5%
4	住居環境が比較的良好	39.9%	交通の便がよい	52.5%
5	買物が便利である	31.9%	海や山の幸に恵まれ食が豊か	50.6%

暮らしやすさを感じるころについては、「自然（緑）が豊か」（66.8%）、「災害が少ない」（64.2%）が多く、その他に、「交通の便がよい」（47.6%）、「海や山の幸に恵まれ食が豊か」（47.0%）、「買物が便利」（46.0%）が多くなっている

男女別にみると、大きな差はないが、女性の3位に「買物が便利」があがっている

年代別に上位3項目をみると、年代ごとに違いがみられるが、いずれの項目も全体の結果の上位5項目に含まれている。その中で、「自然（緑）が豊か」は全ての年代で上位3項目に入っている。年代別の違いで顕著な点を見てみると、「**交通の便がよい**」は、**20代では1位、30代から50代で3位なのに対して、60代以上では上位3項目に入っていない。これは、自動車の利用度の違いが反映されていると考えられる。**また、「買物が便利」は、20代と40代で3位、30代で2位なのに対して、50代以上では上位3項目に入っていない。逆に、「災害が少ない」は、40代で2位、50代以上で1位なのに対して、20代と30代では上位3項目に入っていない。この他に、60代と70代では「海や山の幸に恵まれ食が豊か」が3位に入っており、80代では「人情味がある（人々の人情が厚い）」が3位に入っている。

**これらの年代別の違いは、生活スタイルの違いが反映されていると考えられる。すなわち、若い世代では交通や買物といった生活利便性に関心が高いのに対して、高齢世代では災害や地元の産物、人々の人情といったことに関心が高いといえる。**

「災害が少ない」が上位に入っているのは、本調査実施の9ヶ月前、平成16年10月23日に発生した中越大地震の影響が、市内において小さかったことが一つの要因と考えられる。

地域別にみると、近年、幹線道沿いを中心に、商業施設の集積が進んだ合併前の上越市では「買物が便利」が3位になっている。旧13町村では「人情味がある（人々の情が厚い）」が3位になっている。

前回調査における回答と比較してみると、「買物の便利」が3位に上がっているほか、「交通の便がよい」が5位になっている。

「交通の便がよい」は前回調査と比較して評価が上がっている。これは平成15年から16年にかけて、謙信公大橋の完成や以下の都市計画道路など市内の東西を結ぶ主要幹線道路が整備されたことが影響していると考えられる。

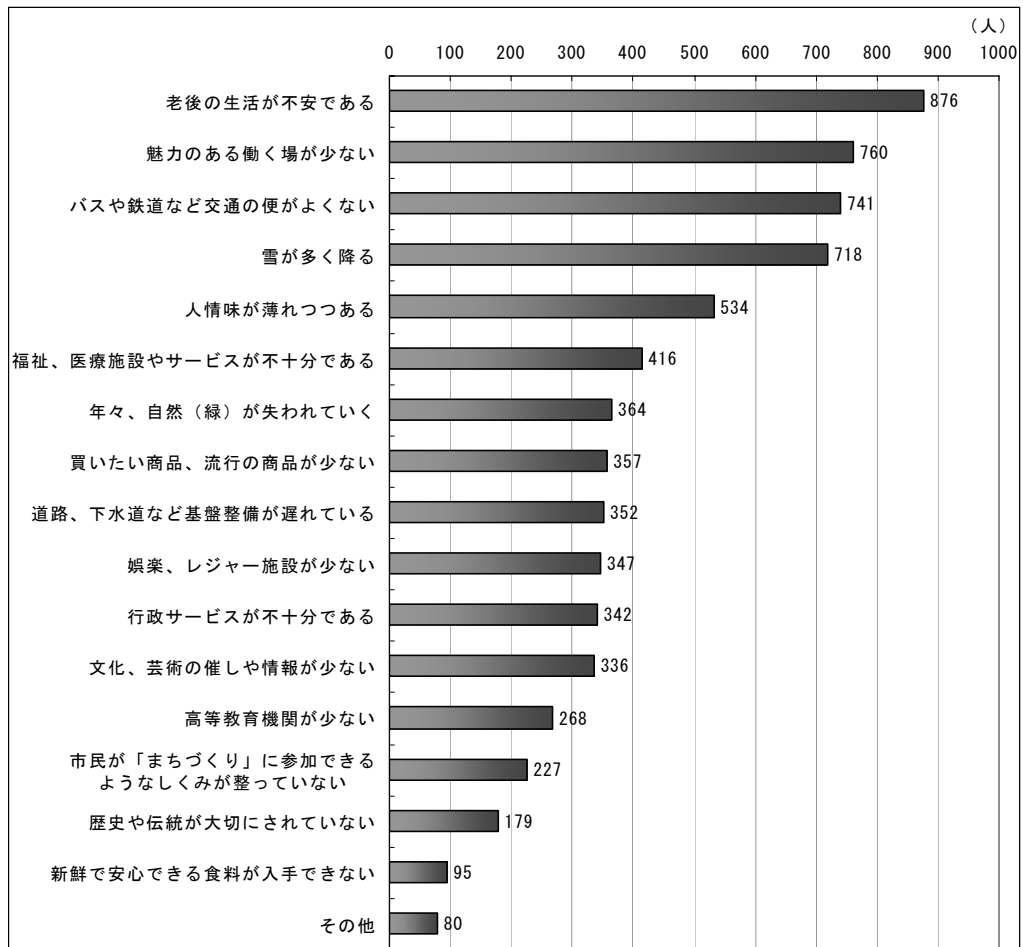
県道 上越安塚浦川原線（平成15年5月）

市道 本町通り北谷内線（平成15年11月）

市道 中田原下箱井線（平成16年12月）

## 2-6 不便や不満を感じるどころ

問6 生活で「不便や不満」に感じるのは、どんなところですか。当てはまるものに、いくつでも○を付けてください。



### <クロス集計：男女別（上位3項目）>

	1位	2位	3位
男性 (n=834)	老後の生活が不安である (45.3%)	魅力のある働く場が少ない (41.1%)	雪が多く降る (35.3%)
女性 (n=894)	老後の生活が不安である (48.8%)	バスや鉄道など交通の便がよいくない (46.3%)	雪が多く降る (43.3%)
全体 (n=1,845)	老後の生活が不安である (47.5%)	魅力のある働く場が少ない (41.2%)	バスや鉄道など交通の便がよいくない (40.2%)

<クロス集計：年代別（上位3項目）>

	1位	2位	3位
20代 (n=129)	バスや鉄道など交通の便が よくない (53.5%)	買いたい商品、流行の商品が少 ない (49.6%) 娯楽、レジャー施設が少ない (49.6%)	
30代 (n=203)	バスや鉄道など交通の便が よくない (44.8%)	魅力のある働く場が少ない (43.8%)	雪が多く降る (39.4%)
40代 (n=247)	魅力のある働く場が少ない (51.8%)	バスや鉄道など交通の便がよ くない (50.2%)	老後の生活が不安である (42.9%)
50代 (n=388)	老後の生活が不安である (53.6%)	魅力のある働く場が少ない (46.9%)	バスや鉄道など交通の便がよ くない (37.9%)
60代 (n=374)	老後の生活が不安である (56.1%)	人情味が薄れつつある (40.9%)	魅力のある働く場が少ない (39.6%)
70代 (n=329)	老後の生活が不安である (52.6%)	人情味が薄れつつある (36.8%) 雪が多く降る (43.8%)	バスや鉄道など交通の便がよ くない (36.8%) 魅力のある働く場が少ない (36.8%)
80代以上 (n=147)	雪が多く降る (42.2%)	老後の生活が不安である (40.8%)	バスや鉄道など交通の便がよ くない (38.1%)
全体 (n=1,845)	老後の生活が不安である (47.5%)	魅力のある働く場が少ない (41.2%)	バスや鉄道など交通の便がよ くない (40.2%)

<クロス集計：地域別（上位3項目）>

	1位	2位	3位
合併前の上越 市 (n=1,075)	老後の生活が不安である (49.9%)	魅力のある働く場が少ない (40.6%)	バスや鉄道など交通の便がよ くない (38.6%)
旧13町村 (n=738)	老後の生活が不安である (43.9%)	バスや鉄道など交通の便がよ くない (42.7%)	魅力のある働く場が少ない (42.5%)
旧東頸城郡 (n=126)	雪が多く降る (61.1%)	老後の生活が不安である (50.8%)	バスや鉄道など交通の便がよ くない (43.7%) 魅力のある働く場が少ない (43.7%)
旧中頸城郡 (n=580)	老後の生活が不安である (42.8%)	バスや鉄道など交通の便がよ くない (42.4%)	魅力のある働く場が少ない (42.2%)
旧西頸城郡 (n=32)	バスや鉄道など交通の便がよ くない (43.8%) 魅力のある働く場が少ない (43.8%)		買いたい商品、流行の商品が少 ない (37.5%) 老後の生活が不安である (37.5%)
全体 (n=1,845)	老後の生活が不安である (47.5%)	魅力のある働く場が少ない (41.2%)	バスや鉄道など交通の便がよ くない (40.2%)



※全体集計における1位～3位の項目にそれぞれ■、■、■の色を塗り、それにあわせ男女別、年代別、地区別の整理を行った。なお、□に記載されている項目は、全体集計の1位～3位に該当しない項目を表す。

＜前回調査との比較（合併前の上越市）＞

順位	平成14年度（17項目から複数回答）		平成17年度（17項目から複数回答）	
1	魅力ある働く場が少ない	46.7%	老後の生活が不安である	49.9%
2	バスや鉄道など交通の便がよいくない	42.0%	魅力のある働く場が少ない	40.6%
3	老後の生活が不安である	37.7%	バスや鉄道など交通の便がよいくない	38.6%
4	道路、下水道など基盤整備が遅れている	28.4%	雪が多く降る	36.9%
5	雪が多く降り積もる	27.9%	人情味が薄れつつある	31.0%

生活で不便や不満に感じるところについては、「老後の生活が不安である」（47.5%）が最も多く、次いで「魅力のある働く場が少ない」（41.2%）、「バスや鉄道などの交通の便がよいくない」（40.2%）、「雪が多く降る」（38.9%）となっている。

男女別にみると、「魅力のある働く場が少ない」が男性で2位なのに対して女性では上位3項目に入っていない。これは一般的に男性の就業率の方が高く、身近な問題として捉えやすいためと言える。

年代別にみると、「老後の生活が不安である」は50代から70代で1位なのを始め40代以上では上位3項目に入っているのに対し、20代と30代では上位3項目に入っていない。これは老後の生活に対する実感が大きく関連しており、世代が高くなるほど当然関心が高くなっていることを表していると言える。逆に、「バスや鉄道などの交通の便がよいくない」は20代と30代で1位、40代で2位なのに対して、50代と70代以上で3位、60代では上位3項目に入っておらず、世代が低くなるほど関心の高い項目であるといえる。これは、若い人ほど行動する範囲が広く、公共交通の不便さを実感しているからと言える。これらの世代別の違いは、問5の「暮らしやすさを感じる場所」と同様に、生活スタイルの違いが反映されていると考えられる。

地域別にみると、合併前の上越市と旧13町村では大きな違いは見られないものの、旧東頸城郡において「雪が多く降る」が1位となっており、地域の特性が表れている。

前回調査における回答と比較すると、少子高齢化などの社会的な背景を踏まえて、「老後の生活が不安である」が増加している。逆に、「道路、下水道など基盤整備が遅れている」が減少している。ここでも平成15年から16年にかけて市内の東西を結ぶ主要幹線道路が整備されたことが影響していると考えられる。

「魅力のある働く場が少ない」は前回調査では1位、今回の調査では2位となっており、本市の政策課題の中で引き続き重要課題となっている。

## ◆ 現在の生活や暮らしについての評価（まとめ） ◆

○愛着や暮らしやすさへの評価は低下しているものの、約8割の人が愛着を感じており、約7割の人が暮らしやすいと感じているなど、全体として地域への愛着や生活に対する満足度は高い。市民が感じる地域への愛着の高さは、今後のまちづくりを進めていく上での貴重な財産であるといえる。

○生活で「暮らしやすさ」や「不便や不満」を感じるところでは、年代別の生活スタイルの違いが反映されている。

- ・高齢世代では、災害の少なさや食が豊かなこと、人々の人情に暮らしやすさを感じている一方で、老後の生活への不安、雪の多さや人情味が薄れつつあることへの不満がある。
- ・若年世代では、暮らしやすさと不便や不満の両方で、交通や買物に関する項目が上位にあり、この点への関心の高さがうかがえる。

○旧13町村に比べ、合併前の上越市のほうが今後暮らしやすくなると期待している人が多い。また、旧東頸城郡と旧中頸城郡の意識の差がみられる。  
市町村合併直後の、今後のまちづくりへの期待感に、地域差が現れたものと考えられる。

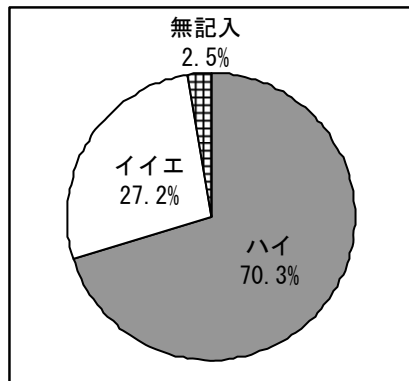
○生活で「暮らしやすさ」や「不便や不満」を感じるところの前回調査（合併前の上越市）との比較では、「交通の便」や「道路、下水道など基盤整備」への評価が高くなっている。

○現在の生活や暮らしやすさに対する評価全体でみると、40代以下の世代と、50代以上の世代との間で意識に差があることがうかがえる結果となった。

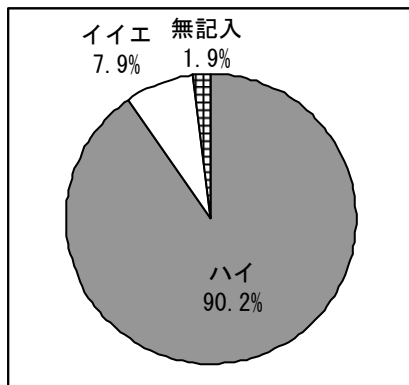
### 3. 現在の生活実態・生活実感について

問7 以下の質問について、「ハイ」「イエ」のどちらかに○を付けてください。

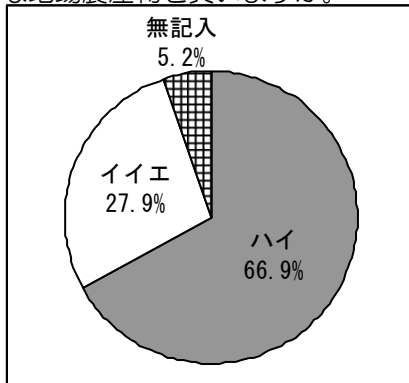
(1) 自宅や勤務先の周辺にある災害時の避難場所を知っていますか。



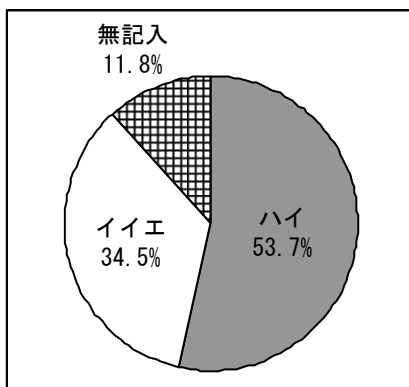
(2) ごみの減量やリサイクルを意識して暮らしていますか。



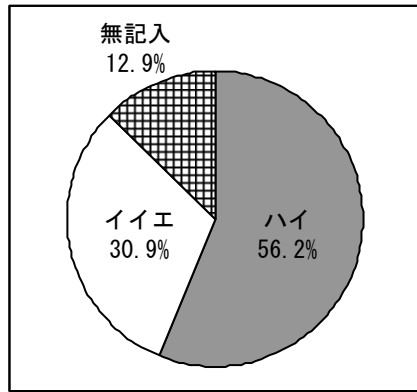
(3) 少し価格が高くて、安全な地場農産物を買いますか。



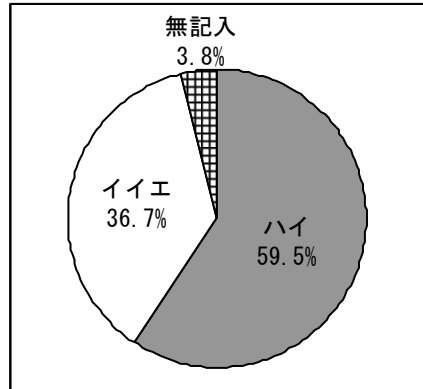
(4) 上越市は、子育てしやすいまちだと思いますか。



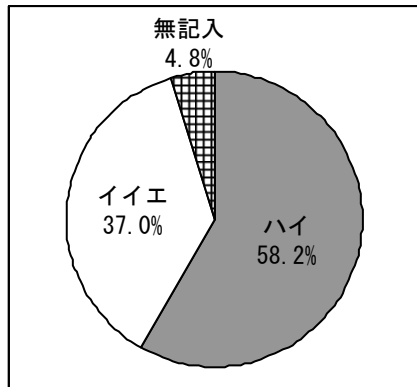
(5) 子ども達は充実した学校生活を送っていると思いますか。



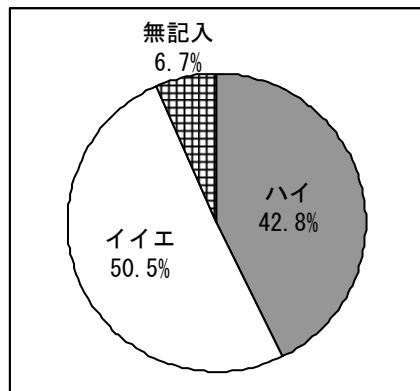
(6) ここ1年以内に、上越市内の道路で歩行中または運転中に、事故などの危険を感じたことがありますか。



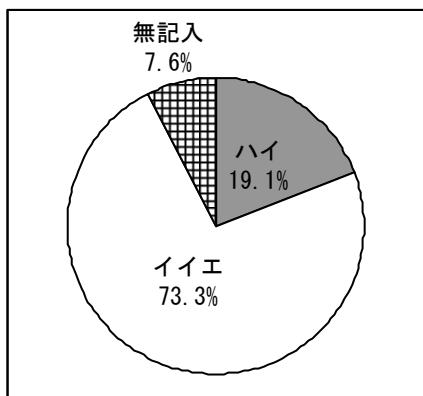
(7) 上越市内のまちなかは、緑や水辺が豊かだと思いますか。



(8) 上越市からの各種の情報提供に満足していますか。



(9) 自分の払った税金が有効に活用されていると思いますか。



※「(4) 上越市は、子育てしやすいまちだと思いますか。」「(5) 子ども達は充実した学校生活を送っていると思いますか。」は無記入の回答者が多くなっている。これは子どものいない回答者にとっては若干答えにくい設問であったためと考えられる。

### ◆ 現在の生活実態・生活実感についての評価（まとめ） ◆

○この設問は、特に今後の行政評価に資する成果指標として、様々な生活実態、生活実感に関する現状値を把握することが主な目的であり、結果に対する考察は特に行わない。

○各問において否定的な回答を行っている人が少なからず存在するため、各施策は、こうした回答者の比率を下げることを目標に行うことが求められる。

○この設問項目は、今後、上越市において、総合計画の推進や、施策評価、行政評価を行う際に、成果指標として活用していくこととする。市が展開する施策の効果や、市と市民との協働のまちづくりの成果を、分野別に評価する際の「ものさし」として活用し、今後、経年的に数値を計測していくこととする。

